

「こどもホスピス」ってどんなところ？

国内に小児がんや心臓病など重い病気と闘っているこどもたちは 約2万人。
そのこどもの多くは入院または病院と家を往復するだけの生活を送っています。

こどもホスピスは、命を脅かされる病気や障がいとともに生きるこどもたちが安心して遊び、成長できる時間と環境を提供する「もうひとつのおうち」とも呼べる施設です。

こどもの病気や障がいは家族の生活も大きく変えます。
特に「きょうだい児」の中には、入院の付き添いなどで親が不在になる寂しさや不安、ストレスを抱えている子も少なくありません。

こどもホスピスでは、きょうだいも一緒に過ごせる機会をつくるなど家族をまるごと支援し、寄り添うことを大切にしています。

病気と闘うこどもは全国各地にいますが、現在、「こどもホスピス」と名のつく施設は国内にわずか3か所しかありません。

今回は「NPO 法人 愛知こどもホスピスプロジェクト」代表理事 畑中めぐみさんと患者家族の立場から安藤晃子さんにお話をさせていただきます。
私たちができることを一緒に考えてみませんか。



ハイパー・メイよう

愛知県にも「こどもホスピス」をつくりたい！

この絵を描いた安藤晃子さんの娘・佐知ちゃんは
2021年5月 白血病により、わずか9歳で旅立ちました。

現在、安藤さんは愛知県にこどもホスピスの設立を目指し、
NPO 法人 愛知こどもホスピスプロジェクトの理事のひとりとして活動しています。

わたしたちは大府から「愛知こどもホスピスプロジェクト」を応援しています！



レモネードスタンドの開催予定《2024年》

9月22日(日) 第40回大府市福祉・健康フェア(石ヶ瀬会館周辺) 10:00~15:00

10月6日(日) こどもホスピス講演会(おおぶ文化交流の杜アローブ) 11:00~14:00

10月20日(日) 第13回てんてん祭り(共和病院) 10:00~15:00

10月26日(土) 27日(日) 第55回大府市産業文化まつり(「ナチュラルリターンクラブ」ブースにて)

レモネードスタンドは、小児がんと闘っていたアメリカの少女が自宅の庭にレモネードスタンドを開き、売上を治療の研究費として寄付したことが始まりです。現在は小児がんの支援活動として世界中に広がっています。

Special Thanks 

Don cajon さん

(趣旨にご賛同いただき、表の絵を無償で使わせていただきました)



Aichi Children's Hospice
愛知こどもホスピス
プロジェクト



ドネーション(想いを金額に込めて)でいただくお金、販売品の収益金は
すべて「愛知こどもホスピスプロジェクト」に寄付します